アカイセエビの持続的利用に向けた資源診断精度向上に関する研究

【研究概要】

小笠原諸島海域におけるアカイセエビについて、試験操業等を実施することでアカイセエビ資源の現況を把握する。また、漁業形態や環境要因が漁獲量に与える影響の評価を行う。加えて、稚エビの採集等を通じて加入量のモニタリング手法開発を試みる。これらを併せて、アカイセエビの資源動向を把握し、資源管理方策の一助とする。

① これまでに得られた操業日誌のデータを用い、一般化線形モデルによりCPUE の標準化を行い、年効果の抽出や月齢との関係を調べた。

② 漁業者が用いている漁具（カニ籠）と同様の漁具を作成し、漁業調査指導船「興洋」により浅海域における投入回収のシミュレーションを行った。

③ 小笠原島漁業協同組合へ試験操業に係る業務委託を行い、通常の操業期間以外（令和７年度は、２～３月）での試験操業を実施した。

④ 東京大学大気海洋研究所との共同研究契約に基づき、粒子シミュレーションを実施した。

⑤ 砕波帯における徒手採集調査及び深度１～３ｍにおいて小型の”もんどり”を用いた採集調査を実施したが、稚エビの採集はできなかった。深度18m でのスクーバ潜水による採集調査では、アカイセエビと思われる稚エビ１尾を発見した。